

隆邦医薬設立に当たって

世界の医薬品市場は現在約 50 兆円で米国がその約半分を占め(約 25 兆円)欧州が 1 / 4 (約 12.5 兆円)、そして国別では第 2 位の日本(約 6.5 兆円)が続いている。薬価が自由な米国を除き日・欧先進国の市場は今後伸び悩みが予想され、特に日本は急速に少子高齢化時代を迎えることから政府は薬価の引き下げ、医療費削減政策を続けている。それにも関わらず日本への欧米大手外資企業の進出拡大は続いており、正に生き残りを掛けた業界再編淘汰の時代に入ってきている。

一方中国医薬品市場は現在約 2 兆円弱の規模で世界市場の 4 %程度を占めるに過ぎないが、過去 25 年間 2 ケタ成長を続けており、特に西洋医薬の市場の拡大は著しい。ここ 2 年間の 20 %成長を当てはめて予想すると 2011 年には日本市場を追い抜くことになる。中国経済の成長特に WTO 加盟後の経済発展による国民生活水準の向上を考えると、世界の人口の約 2 割を占める 13 億人の中国市場のポテンシャルは計り知れなく大きい。ただ、中国市場の医薬品の 95 %が後発品であり、また 2004 年 12 月から流通市場の開放も始まり大手外資流通企業の参入が本格化してくることから、中国医薬企業による研究開発力の強化や流通・物流サービスの強化は緊急の課題である。

隆邦医薬はこの様な世界医薬市場と中国医薬市場の現状を捉え、中国の医薬産業の発展と健康を通じた中国国民への貢献を目的として外資 100%出資の医薬卸貿易会社として初めて認可され設立された。これから日・欧各国の医薬関連企業は国内市場の飽和(米国を除く)により、生き残りをかけて海外市場を開拓しなければならず、その中で最もポテンシャルのある市場は間違いなく中国である。しかし企業進出の成功の鍵を握るのは進出市場で販売先があり代金回収が確実なことである。我々はその問題解決のため全国主要 5ヶ所(北京・上海・長春・深セン・成都)に拠点を設け販売・代金回収を行う全国規模の卸販売会社を設立した。そしてこのプロジェクトの推進には元行政府関係者、海外留学医学博士、業界専門家等の医療関係エリートを召集している。

次に隆邦医薬は単なる卸売販売だけでなく、IT 情報化による高付加価値サービスの提供と先端医薬・医療の共同開発支援を行い事業のもう一つの柱に据える。

具体的には、流通・物流の IT 情報化、ライセンス申請代行業務、市場調査、医療情報サイト立ち上げ、インターネット販売そして中国側先端研究機関と西側医薬関連ベンチャー企業と臨床・研究開発支援、投資・M & A、ファンドでの資金提供、研究成果の事業化等である。

以上のように本プロジェクトは、西側医薬関連企業とともに中国の医薬産業・企業、経済・地域発展と中国国民の健康に貢献するプロジェクトであり、タイミング的にもまさしく時代の要請と言えるものと確信している。